

入試日程

■2019年度 博士課程前期課程

一般 社会人	試験日	出願期間
スターリング大学 ダブルディグリーコース <sup>®</sup> 英語教員対象 1年制修士学位コース	第1次	2018年 9月 8日(土) 2018年 8月16日(木)~ 8月23日(木)
	第2次	2018年 11月24日(土) 2018年 11月 1日(木)~11月 8日(木)
	第3次	2019年 2月23日(土) 2019年 1月31日(木)~ 2月 7日(木)

※スターリング大学ダブルディグリーコース第2次および第3次入試は、定員充足状況により実施しないことがあります。

学内推薦	試験日	出願期間
学内推薦第1次	2018年 9月 8日(土)	2018年 8月16日(木)~ 8月23日(木)
学内推薦第2次	2018年 11月24日(土)	2018年 11月 1日(木)~11月 8日(木)

■2018年度・2019年度 博士課程後期課程

2018年度 秋入学	試験日	出願期間
秋学期入学	2018年 6月30日(土)	2018年 6月 7日(木)~ 6月14日(木)

2019年度 春入学	試験日	出願期間
春学期入学	2019年 2月22日(金)	2019年 1月31日(木)~ 2月 7日(木)

◎交通アクセス



西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155  
阪急電車 今津線「甲東園」駅または「川口」駅から西へ徒歩約12分  
または「甲東園」駅から阪急バス約5分「関西学院前」下車



大阪梅田キャンパス

〒530-0013 大阪府北区茶屋町19-19(アプローズタワー10、14F)  
阪急電車「梅田」駅から北へ徒歩約5分



言語

コミュニケーション  
文化研究科

Graduate School of Language,  
Communication, and Culture

2019

# Better Communication for a Better World

[研究科委員長からのメッセージ]

## 他国の言語と文化を学び、相互理解を追究する

言語コミュニケーション文化研究科は、2001年4月の開設以来今日に至るまで、関西学院大学内の何れの学部にも属さない独立研究科として着実にその歩みを進めて参りました。研究領域が言語科学、言語文化学、言語教育学、そして日本語教育学と多彩であることに加えて、現在在籍している院生も多様で、様々な大学の出身者や海外からの留学生、社会人、そして現職英語教員などバラエティに富んでいます。外国語や異文化の研究を進めていく当研究科において、この人的多様性はそれぞれの研究に活力を与えるひとつの要素となっています。

2016年度からは、英国スターリング大学で学び同時に本研究科でも修士号が取得できるという、ユニークなダブルディグリーコースが始まりました。また、2017年度からは4領域の研究科目を横断的に履修可能となるカリキュラムに改定され、より学際的な方向性を打ち出しています。グローバル化という言葉が喧伝されて久しくなりますが、昨今の世界を覆っている雰囲気は外向きではなく内向き、開放的ではなく保護主義的で、融和ではなく対立の方向を志向しているように映ります。このような時代であるからこそ、これまでも増して他の言語や文化を学ぶ必要性が高まっていると言えるでしょう。本研究科の名称は、「言語」と「文化」の間に「コミュニケーション」という言葉が両者をつなぐようにおかれています。外国語や異文化の学びは、相互理解を促します。他言語や他文化に対する新たな視座の獲得をめざしてみませんか。皆さんの挑戦を心からお待ちしています。

言語コミュニケーション文化研究科委員長  
増永 俊一

## コミュニケーションを柱に、4領域で言語と文化を探究

言語と文化の両面から人と社会にアプローチする「言語コミュニケーション文化学」は人と社会の関係を地球レベルで進化させ、未来を輝かせる大きな力になります。本研究科では、言葉や文化の壁を超えて互いの力を分かち合い、高い志をもって未来を創造するグローバル化の時代の担い手となる人材を育成します。

言語科学  
プログラム

人が言語をどのように駆使するかを解明

言語文化学  
プログラム

地域文化、多言語多文化、表象文化の諸問題を探究

言語教育学  
プログラム

学際的・実証的な言語教育方法を探究

日本語教育学  
プログラム

外国人を対象とした日本語教育を探究

## 言語運用能力をブラッシュアップ

本研究科では言語運用能力をブラッシュアップするための授業を開講しています。国際的な学会でのプレゼンテーションやディベート、そして研究論文執筆に必要な「読む・書く・聴く・話す」能力を、「言語コミュニケーション能力養成科目」(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)で養成します。



# 世界中の留学生が集う 英国スターリング大学で学び、 両大学の修士号を取得する。

最短2年間で、本研究科修士号(言語教育学または言語科学)および  
 スターリング大学大学院 MSc (TESOL) の2つの修士号を取得できます。



University of Stirling  
 MSc in TESOL  
 Programmes Director  
**Anne Lawrie**

<Message>

As the Programme Director for the Double Degree between the universities of Kwansai Gakuin and Stirling, I am delighted to report that our first Double Degree student graduated in March 2018. After two years of study, this student graduated with two Master level degrees rather than one.

In an increasingly competitive world, I believe that Double Degrees are a sign of the future. In the world of teaching in general and TESOL in particular, the more exposure to and awareness of different learning and teaching styles can only enrich and develop our knowledge and understanding of the field, which, in turn, informs our own practice. By providing the opportunity to study in Japan and Scotland, our Double Degree offers that opportunity precisely.

Other benefits of the Double Degree programme include: it provides an excellent balance between theory and practice; it increases your cultural awareness as you work and study with native and non-native speaking students from other parts of the world and most importantly, it increases your future employability and promotion prospects. Graduates of our Double Degree are truly global citizens.

2つの修士号を取得できる  
 ダブルディグリーコースです。

関西学院大学大学院からスターリング大学大学院に2 Semester 留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、両大学の修士号を取得できる制度です。

TESOLを専攻し  
 英語教育を学ぶことができます。

世界各国の留学生と机を並べながら、最新の研究動向に精通した  
 アカデミックスタッフのもと、英語教育の実践的テクニックと、その裏付けとなる理論を学ぶことができます。

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)  
 英語の非母語話者への英語教授法。スターリング大学では、モジュール(科目)選択の組み合わせによって、TESOL、TESOL Applied Linguistics、TESOL Computer Assisted Learning の3つから、取得する修士号(MSc)を選ぶことができます。

スターリング大学

創 立：1967年  
 学校種別：国立  
 所 在 地：英国スコットランド



世界の大学ランキングにおいて総合五つ星を獲得する英国スコットランドの総合大学。湖や18世紀の古城を取り囲む330エーカーの広大なキャンパスに、講義棟、図書館、学生寮、スポーツ施設、アート・センター、カフェ、レストランが建ち並び、11,000人以上の学生が学ぶ。115ヶ国からの留学生が全体の23%を占め、学習・生活の両面におけるサポートも充実している。

\*QS World University Rankings 2015/16



■ 2年間の基本的な流れ

1年次		2年次	
Semester 1 (4月~7月)	Semester 2 (9月~12月)	Semester 3 (1月~8月)	Semester 4 (9月~3月)
関西学院大学 言語コミュニケーション能力 養成科目を中心に履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修 学位論文提出	関西学院大学 専門科目、演習科目の履修 学位論文提出

■ 学費・奨学金

学 費				奨学金
1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期	
約35万円 (+入学金23万円)	関西学院大学: 5万円 (通常: 約70万円) スターリング大学: £8,000 (通常: £13,950)		約35万円	月額7万円支給 (留学期間中)

■ その他

◎専修免許(英語)取得可能

■ 主な受験資格

希望者は「スターリング大学ダブルディグリーコース入試」を受験します。

主な受験資格
IELTS: 6.0以上 (Speaking 5.5, Listening 6.0, Reading & Writing 6.5) , TOEFL® iBT TEST: 80点以上 (Speaking 17, Listening 20, Reading & Writing 23) , Pearson Test of English (Academic) : 54点以上 (Speaking 51, Listening 56, Reading & Writing 60) , Cambridge Certificate of Proficiency in English: Grade C, Cambridge Certificate of Advanced English: Grade C

入学試験形態
<input type="checkbox"/> 口 試 試 験

## 前期課程

### 充実のカリキュラムと指導体制

前期課程では、4つのプログラムに分かれて学びますが、他のプログラムの科目も自由に履修できる柔軟なカリキュラムを設定しています。また、指導教員やサブ・アドバイザーによるきめ細かな指導を徹底しており、確かな研究能力の養成に取り組んでいます。



## Courses

### 「研究演習」を履修する 修士論文コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、指導教員（研究演習担当教員）から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究計画を立て、先行研究などの必須文献を通して知識を深めながら自律的に研究を進め、修士論文の作成に取り組みます。修士論文は学術的、理論的色彩の強いもの、もしくは調査分析をもとにした実証的な内容が求められます。

### 「課題研究」を履修する 課題研究コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員、サブ・アドバイザーによるアドバイザー・コミッティが結成されます。このアドバイザー・コミッティとの年2回の相談会と個別相談により、各自が独自の課題について研究計画を立て、課題研究論文作成に取り組みます。課題研究論文はフィールド・ワークなど実践的、実学的な論文内容も含まれますが、修士論文と同等レベルの内容が求められます。なお、課題研究コースは、言語科学、言語教育学に設置しています。授業は夜間に大阪梅田キャンパスを中心に履修して修了することができます。

### 両大学の修士号が取得できる スターリング大学 ダブルディグリーコース

出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員（研究演習担当教員）から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究を進めていきます。1年次春学期に開学で「研究演習Ⅰ」を履修し、秋学期からはスターリング大学で「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」相当科目を履修し、修士論文の作成に取り組みます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容や調査をもとにした実証的な内容が求められます。

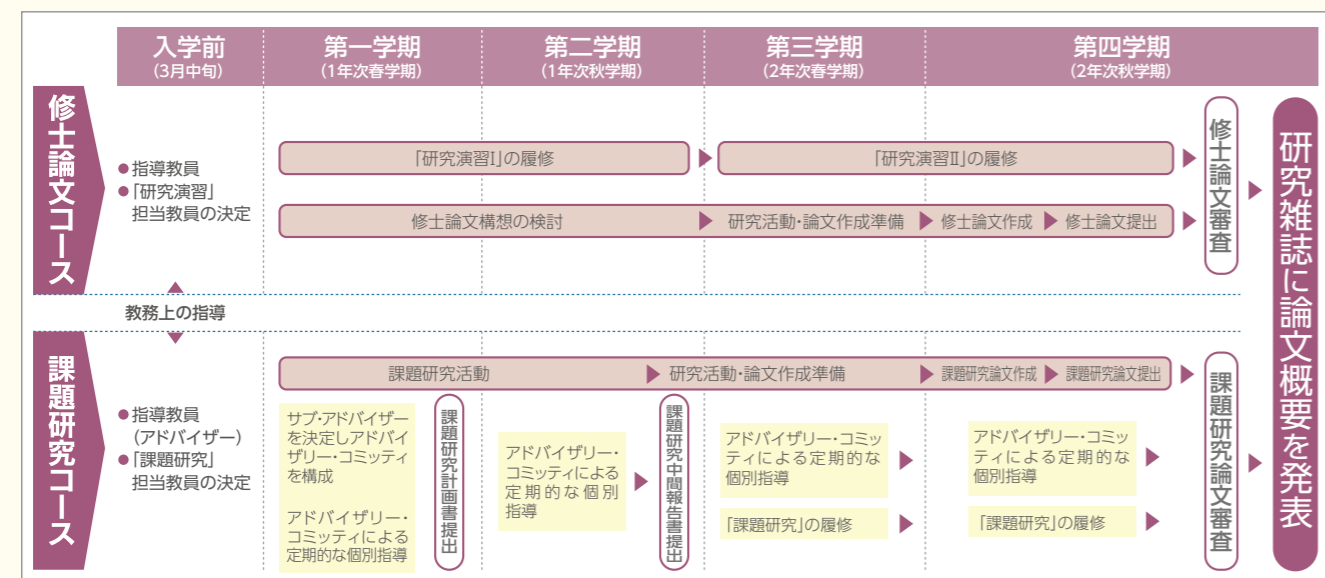
### 英語教育の実務家としてスキルアップを図る 英語教員対象 1年制修士学位コース

出願時に提出した研究計画に基づき、指導教員（研究演習担当教員）、サブ・アドバイザー2名によりアドバイザー・コミッティを結成し、年2回の相談会と研究演習を通じて課題研究論文を作成します。課題研究論文を選択しない場合は、口頭による英語でのプレゼンテーションによって修士学位に相当する専門分野の知識や技能があるかを審査します。研究テーマについても実証的な内容に限らず、教育実践に焦点を当て、教材研究、授業研究など幅広く研究テーマを選択することができます。

### アドバイザー・ コミッティ

課題研究コース、英語教員対象1年制修士学位コース生に対して、指導教員1名とサブ・アドバイザー2名の計3名でアドバイザー・コミッティを構成し、学生の研究活動をサポートします。修了までの毎学期、アドバイザー・コミッティ相談会が実施され、コミッティのメンバーと各自の研究計画や進捗状況について相談するほか、相談会以外でもe-mail等を活用した研究指導を受けることが可能です。

#### ■前期課程(2年間)の流れ



※ダブルディグリーコースはP4参照。

## 後期課程

### 個人指導、集団指導で手厚くサポート

本研究科は、言語教育、異文化理解、第二言語習得、心理言語学、対照言語学、社会言語学、会話分析など、言語と文化が深く関わりあう領域を専門とする研究者を輩出しています。後期課程では、指導教員が実施する個人指導の「個別研究指導」と、指導教員を含む3名の教員が実施する集団指導の「リサーチセミナー」の2つによる研究指導が行われます。



## Courses

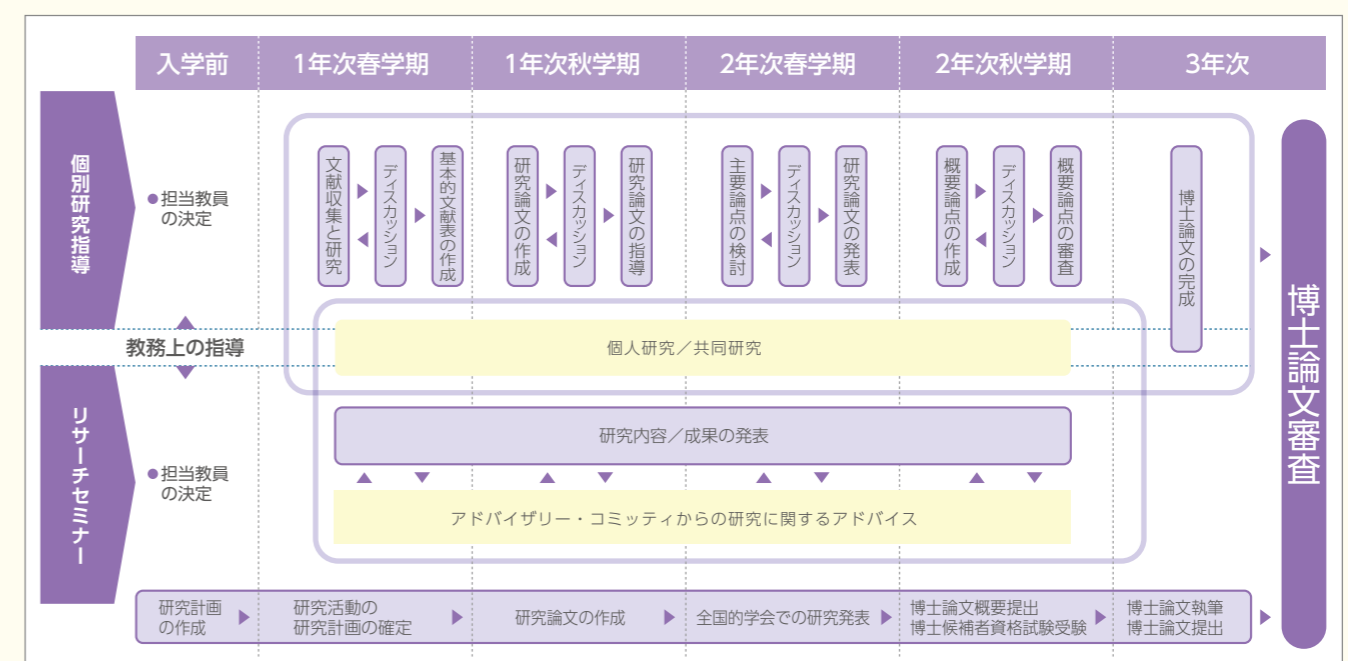
### 個別研究指導

指導教員(アドバイザー・コミッティのアドバイザー)による研究演習です。学生による研究の経過報告と担当教員によるコメントや助言を基本に、週に1回、3年間にわたって指導し、博士論文の作成を進めます。専門的な研究指導を行うとともに、課程修了後、言語コミュニケーション文化の専門研究者として独り立ちするために、文献・資料の収集方法、論文作成方法などの技術的側面の指導から研究に対する姿勢まで全般にわたって指導します。

### リサーチセミナー

集団指導体制によって実施されるセミナーです。言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から横断的、総合的に各自の研究を推進し、課程修了後、研究者として自立して研究を遂行していく能力を身に付けることを目標とします。セミナーは、3名の教員からなるアドバイザー・コミッティが担当し、毎月1回、学生による研究内容の報告を中心に行われます。なお、本セミナーは研究科内で原則として公開とし、アドバイザー・コミッティ以外の他の研究科教員及び院生にも開かれています。

#### ■後期課程(3年間)の流れ



※博士課程後期課程の必要修得単位数は12単位とし、個別研究指導12単位およびリサーチセミナー6セメスター分の履修を必修とする。

人が言語を駆使する仕組みを

# 言語、心理、社会 など多角的に追究

## 言語科学プログラム

ことばを科学的視点から分析し、  
言語の実態を明らかにする

言語構造、言語コミュニケーションを有効に成り立たせる条件、人間が言語をどのように駆使するかなどを科学的に解明します。研究分野としては、音声学、音韻論、統語論、意味論といった言語科学の基礎を成す分野や、文と文脈との関連性を考える語用論、言語と社会との関わりを研究する社会言語学、言語と心理との関係を研究する心理言語学、言語使用の実態研究を行うコーパス言語学、言語表現論など、言語コミュニケーション能力の解明に関する分野があります。後者は言語教育や文化に関する研究とも関係しています。基礎分野を概観する講義で言語を科学的な分析の対象にすることを学び、さらに各論の講義において、その分野での研究方法を身につけることができるようになっています。



### ● 音声科学

言語の音声面における規則や現象に焦点を当てます。講座の後半では音韻論(音体系中の規則を明らかにする分野)も扱います。研究対象言語は主に日本語と英語ですが、音声学の範囲は大変広いので、外国語教育に役立つ調音音声学を主に取り扱います。

### ● 心理言語学

認知心理学や生理心理学で使われている実験方法から得られるデータに基づいて、言語の理解や発話生産の過程及び言語の獲得・喪失のしくみを明らかにする学問分野です。母語話者だけではなく、第二言語の学習者についての研究も扱っています。

Close up  
講義

## Message

言葉の勉強から言葉の研究へ。

言語意味論では、言葉の意味といふなかなか捉えがたい問題に取り組みました。一つ一つのテーマごとに学生が持ち寄った興味深い表現についてディスカッションを行なったので、理論的な面だけでなく研究のための実践的な手法を身につけることができました。

岡田 優也

前期課程 修士論文コース2年

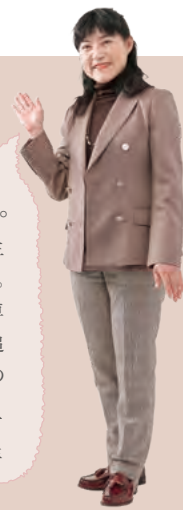


課題研究コースに在籍し、  
梅田にて夜間の講義を履修しています。

仕事の帰りに出席できる便利な立地と、担当の先生との密接な対話による少人数の授業が魅力です。内容も「言語科学」の講義等、複数の先生方のご専門について各々限られた時間で多様な角度から追究するカリキュラムが組まれており、有意義な学びの場を得ています。

加納 央子

前期課程 課題研究コース2年



### ■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- カタカナ語における長母音の生成—日本語母語話者と日本語学習者の比較—
- A Corpus-Based Analysis of *Take*: With Special Reference to its Linguistic Formal Types
- On the Licensing of Negative Polarity Items in the Complement of Inherently Negative Verbs
- 日本語かき混ぜ文におけるフィルターギャップ依存関係の処理過程—事象関連電位を指標として—
- The Syntactic and Semantic Differences of Modal Adjectives: With Special Reference to *Probable, Likely, and Possible*
- 聾学校におけるろう児と教師の関係性についての社会言語学的研究

英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、中国語圏の

# 言語と文化を研究

## 言語文化学プログラム

境界線を超える

～多言語化・多文化化する社会への学際的アプローチ～

多言語化・多文化化する世界を積極的に理解し、異文化理解の視点からグローバルに行動できる人材を養成します。「比較文化学」「異文化理解」などの科目は言語や文化の境界線を超えようとする科学です。各プログラムの特徴ですが、まず「地域文化研究プログラム」はヨーロッパ、北米、日本を含む東アジア地域の言語や文化にかかわる基礎研究を踏まえて、個別言語と文化の問題をさまざまな角度から扱います。「多言語多文化学際プログラム」は境界線を超えた言語・文化事象に関わる多彩な問題を扱います。また「映像演劇文化プログラム」は、映画・演劇という文字テキストの枠を超えた表象文化に関わる問題群を扱います。



### ● 日本文化

近年、「日本的なもの」を他国の文化から差別化し、再評価する動きが日本国内にあります。和食、富士山、桜など。この講義では「日本的なもの」という表象の起源をさぐると共に、それを徹底して「外から」見て相対化することをめざします。

### ● 多言語主義・多文化共生

人の移動が激しくなり、社会は多文化化し多言語化しています。その現象を、シティズンシップ教育、海外と国内の日本語教育、ヨーロッパの言語政策、ヘイトスピーチ、猪飼野の民族関係、日本の多言語化などを題材にして質的に考察します。

Close up  
講義

## Message

表象文化ならではの研究手法を使い、  
映画に関する研究を進めています。

日本の映画監督、小津安二郎と岩井俊二の作品について研究しています。「映画学」の授業で、ゼロから映画に関する知識を勉強し、映画の構図や編集にフォーカスした表象文化ならではの研究手法を用いながら、映画の背後に含まれている深い文化的意味を解明しようとしています。

田 雨時

前期課程 修士論文コース2年



イギリスの文化を深く知ることができ、  
個人の研究にも役立ちました。

英語圏文化学では、物語の読解を通してイギリスの文化を深く知ることができます。個人の研究に関連付けて進めてくれるので、研究にも役立ちました。英文の読解がベースですが、丁寧に解説してもらえるので、英語のリーディングスキルを高めることもできます。

安井 知紀

前期課程 修士論文コース2018年3月修了



### ■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- アメリカ大統領に立候補した最初の女性—伝記からみたヴィクトリア・ウッドハルと19世紀アメリカ社会—
- カナダ在住国際結婚の日本人女性達のライフストーリー
- 日本語学習者が持つ日本のイメージとその学習意識—オーストラリア・ビクトリア州の中等学校の場合—
- A Contrastive Study of Verbal and Non-Verbal Expressions in Japan and the United States: By Comparison of Japanese Original Films and Their Hollywood Remakes
- John Irvingの抱く家族像—集合体の表象としての建物の影響力
- フランスと日本の子育て文化

# 英語教育における学際的、 実証的な言語教育方法を探究

## 言語教育学プログラム

言語教育の変容に柔軟に対応できる  
確かな英語教育力を養成

今、外国語の学習・習得研究が脚光を浴びています。なぜでしょうか。これまで言語教育学の主な目的は、その研究成果を教室での教授法に応用することでした。しかしそれだけでなく、外国語の習得(acquisition)という「窓」から、言語習得という「知的いとなみ」、さらには人の「こころの仕組み」を調べる…そんな領域へと変貌したからです。言語の習得や教育の基本を扱う言語教育学、第二言語習得、早期英語教育理論などから、中高生に英語を教える実践を学ぶ英語教育実践、教育評価や、小学校での外国語活動のための小学校英語教育実践まで、言語教育学の全領域をサポートします。現代の言語教育学の潮流へと、しっかりとしたチャート(海図)をもって、皆さんをご案内します。



### 言語教育学

言語学習と言語教育について理論言語学や言語教育学の立場から3名の教員によって行われるリレー講義です。1粒で3度おいしい。1年目に履修して研究テーマ探しのヒントにするもよし。2年目に履修して、研究に新たな視点を加えるのもいいでしょう。

### 英語教育実践

中学校や高等学校の授業で活用できる実践例を、背景にある理論も交えて知るのが目的です。実践例としては、listening, speaking, reading, writingのほか、語彙、発音、文法などの指導例も取り上げます。

Close up  
講義

## Message

子どもの認知機能と言語能力の発達について学びました。

小学校でも教科として英語が導入されるなど英語教育が早期化される中で、早期英語教育理論で、発達心理言語学の視点から子どもの言語習得のプロセスやメカニズムについて学ぶことは今後多いに役立つと考えています。

小槇 進介

前期課程 修士論文コース2年



自分で実際に教材を作成することで、質の高い授業の運営方法を学びました。

言語教育学プログラムでは言語教授の理論を学ぶだけでなく、実践も行います。英語教育法では、英語の4つの技能、その教授法を理論的に学んだ後、実際に自分で教材づくりを行いました。そうすることでどのようにすれば質の高い授業を運営できるかということを知ることができました。

二星 蘭

前期課程 修士論文コース2018年3月修了



### 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- A Practical Study of the Effectiveness of Using IPA in Teaching English Monophthongs to Japanese Preschool Children
- A Corpus-based Comparative Study of *be+ing* and *-teiru* Forms from the Perspective of Japanese Learners of English
- The Relationship between Autonomy and Performance among Japanese EFL Learners: Based on Self-Determination Theory
- A Comparative Acoustic Analysis of English Vowels in Speaking and Singing
- Comparative Effects of Dictation, Reading Aloud, and Shadowing Practices on EFL's Listening Ability: Focusing on Sound Changes

# 外国語・第二言語としての 日本語教育の実践者を育成

## 日本語教育学プログラム

多くの修了生が日本語教育の  
専門知識を活かして国内・海外で活躍

日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材輩出を目指します。それに関わる言語・文化・教育学の内容であればいずれもここで研究することができます。たとえば、音声学や語彙・文法の研究、日本語と他言語の対照、言語習得論、教授法と教材開発、コミュニケーション論、談話分析、社会言語学、心理言語学、言語教育政策、日本文学・文化論、メディアとカルチャーなどが挙げられます。また、多様化する日本語教育のニーズに合わせた実践授業に加え、現職日本語教師のリカレント教育も行います。各分野の専門家である指導教員が温かく指導に当たっており、満足のいく研究ができます。修了生は、日本語学校や中高の教員、外国の大学教員、会社員などとして国内外で活躍しています。



### 日本語教育研究(実践)

日本語学習者向け教材の分析、教案作成、模擬授業などを行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための科目です。授業活動を通じて、問題解決の方法や効果的な指導法などを各自の実践をもとに考えます。

### 日本語語彙・文法教育

日本語非母語話者を対象とする日本語教育を円滑に行うためには、日本語の語彙や文法の知識が必要です。この授業は、日本語非母語話者への日本語教育に必要な語彙や文法の基礎知識を学ぶことを目的としています。

Close up  
講義

## Message

「共に笑う」という相互行為について会話分析の手法を用いて研究をしています。

留学生寮における「共に笑う」という相互行為について研究をしています。様々な言語や文化的背景を持つ人々が、どのようにして同じ出来事に対して「共に笑う」ことが出来ているのか。この問いを会話分析の手法を用いて質的な方面から明らかにすることで、異文化コミュニケーションの促進を目指しています。

大野 百合香

前期課程 修士論文コース2年



教壇に立って日本語を教えることで、今後に活かせる貴重な経験が出来ました。

「日本語教育実践」の授業では、教材分析、模擬授業を通して日本語教育の実践に必要な基礎的な知識やスキルを身につけた上で、実際に教壇に立って外国人留学生たちに日本語を教えることができますので、日本語教師になるために非常に役に立つと思います。

陳 超

前期課程 修士論文コース2年



### 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- 日本語学習者の学習動機に見られる日本ポップカルチャーの影響
- 初対面における日韓ほめについての対照研究 — 会話分析によるアプローチ —
- 日本語教育における文学教材の可能性
- サ変動詞と共起する格助詞「に」「を」の交替に関する一考察 — 国会会議録を手掛かりに —
- 若者の「方言」意識 — 関西・九州を比較して —
- 相互文化理解を目指した授業づくりに関する一考察 — 自己表象のディスコースに注目して —

# カリキュラムと修了要件 (前期課程)

科目区分		言語コミュニケーション能力養成科目		領域研究科目				実習科目	演習科目			修了必要 単位数										
授業科目の名称 (単位数)		<基礎科目> 言語コミュニケーション文化特論 (2) 異文化コミュニケーション論 (2) スピーチ・コミュニケーション論 (2) ことばと文化 (2) 英語と文化 (2)		<運用能力養成科目> [英語科目] 英語インテンシブ・リスニング (2) 英語オーラル・プレゼンテーション (2) 英語ディベート (2) 英語クリエイティブ・ライティング (2) 英語アカデミック・ライティング (2) [フランス語科目] フランス語論文作成 (2) フランス語読解 (2) フランス語コミュニケーション (2) [ドイツ語科目] ドイツ語論文作成 (2) ドイツ語読解 (2) ドイツ語コミュニケーション (2) [中国語科目] 中国語論文作成 (2) 中国語読解 (2) 中国語コミュニケーション (2)		<言語科学領域> 言語科学 (2) 音声科学 (2) 言語構造論 (2) 言語意味論 (2) 言語表現論 (2) 対照言語学 (2) 言語学用論 (2) 辞書学 (2) コーパス言語学 (2) 社会言語学 (2) 心理言語学 (2) 言語障害学 (2) バイリンガリズム (2)				<言語文化学領域> 言語文化学 (2) 比較文化学 (2) 異文化理解 (2) 思想と文化 (2) 批評と文化 (2) 演劇学A (2) * 演劇学B (2) * 映画学A (2) * 映画学B (2) * 多言語主義・多文化共生 (2) 日本文化A (2) * 日本文化B (2) * 英語圏文化 (アメリカ) A (2) * 英語圏文化 (アメリカ) B (2) * 英語圏文化 (イギリス) A (2) * 英語圏文化 (イギリス) B (2) * 仏語圏文化A (2) * 仏語圏文化B (2) * 独語圏文化A (2) * 独語圏文化B (2) * 中国語圏文化A (2) * 中国語圏文化B (2) *				<言語教育学領域> 言語教育学 (2) 第二言語習得 (2) 言語学習心理学 (2) カリキュラムデザイン (2) 授業分析 (2) 教育評価A (2) 教育評価B (2) 言語教育研究法 (2) 英語教育法 (2) 英語教育教材研究 (2) 小学校英語教育実践 (2) 早期英語教育理論 (2)		<日本語教育学領域> 日本語教育学概論 (2) 日本語音声教育 (2) 日本語文字・表記教育 (2) 日本語読解・文法教育 (2) 言語習得と日本語教育 (2) 言語社会と日本語教育 (2) 日本語会話分析法 (2) 日本語フィールド調査法 (2) 日本語翻訳論 (2) 日本語と中国語の翻訳研究 (2) 日本語と英語の翻訳研究 (2) 日本語教育トピックス (2)		日本語教育実践I (3) 日本語教育実践II (3)	研究演習I (2)	研究演習II (2)	課題研究 (2)	
言語科学領域	言語科学プログラム	修士論文コース		・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から6単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位										
		課題研究コース		・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から8単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	—	—	4単位											
		スターリング 大学ダブル ディグリーコース	IELTS6.5 以上に 相当する者	英語科目の中から4単位 (1年春学期に履修)		16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—											
		スターリング 大学ダブル ディグリーコース	IELTS6.5 未満に 相当する者	英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング		6単位必修 1年春学期に履修	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位		—									
言語教育学領域	言語教育学プログラム	修士論文コース		・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から6単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位										
		課題研究コース		・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から8単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	—	—	4単位											
		スターリング 大学ダブル ディグリーコース	IELTS6.5 以上に 相当する者	英語科目の中から4単位 (1年春学期に履修)		16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—											
		スターリング 大学ダブル ディグリーコース	IELTS6.5 未満に 相当する者	英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング		6単位必修 1年春学期に履修	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位		—									
		英語教員対象 1年制修士学位コース		—		24単位	(英語教授法実践2単位とそれ以外の言語教育学プログラムの領域研究科目18単位を含む)	—	4単位	—	—											
言語文化学領域	地域文化研究 プログラム 多言語 多文化学際 プログラム 映像演劇文化 プログラム	修士論文コース		・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から6単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		14単位	(各語圏文化の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位										
				・英語科目 ・ドイツ語科目 } の中から2単位 ・フランス語科目 ・中国語科目		18単位	(多言語主義・多文化共生の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位	4単位	—											
						18単位	(演劇学A・B、映画学A・Bの中からの2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位	4単位	—											
日本語教育学領域	プロフェッショナル プログラム 【注3】 アカデミック プログラム 【注3】 日本学 ダブルディグリー プログラム 【注4】	修士論文コース		【注1】		16単位	(日本語教育学の領域研究科目10単位を含む)	6単位	—	—	—	30単位										
				【注1】		22単位	(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	4単位	4単位	—											
				【注1】		22単位	(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—	—	—	—											

【注1】日本語教育学の各プログラム生が「ことばと文化」、フランス語科目、ドイツ語および中国語科目を除く言語コミュニケーション能力養成科目を履修するためには、TOEFL500点 (ITPを含むPaper-basedの点数。Internet-Basedは61点) 以上またはTOEIC (TOEIC-IPを含む) 600点以上の有効なスコアを有することを条件とする。

【注2】英語教授法実践は、英語教員対象1年制修士学位コース学生以外は履修不可。

【注3】実習科目が必修である「プロフェッショナルプログラム」と実習科目を履修しない「アカデミックプログラム」は、入学試験出願時に本人が申請する。

ただし、教育機関での日本語教育経験が3年未満の者は、「アカデミックプログラム」は選択できない。

【注4】日本学ダブルディグリープログラムは、海外交流協定校特別学生入学者専用。一般入試等での選択不可。

☆領域研究科目の開講原則：4学期間に昼2回 (言語科学と言語教育学は昼と夜を各1回) 開講する。ただし、\*の科目は隔年開講を原則とする。

## 修了生からのメッセージ

### 大切な財産となっています

私には、教員になって国際化社会を担う子供たちを育てたいという夢がありました。その為に、言語教育、コミュニケーション教育について深く学びたくて、本研究科に進学しました。大学院では、外国語の授業内で、どんなときに生徒は強く不安を感じ、どのような対処法があるのかを研究しました。卒業後は、国立小学校の教員を経て、現在は海外の日本人小学校に勤務しています。英語圏にある現勤務校は、英語のみで授業を行うイメージオン教育が盛んに行われています。日本から来たばかりの子など、外国語にどっぷりつかると不安がある子も少なくありません。研究科で二年間学んだことは、日々子供たちと向き合うための大切な財産となっています。



高橋 梓

2013年3月 前期課程修了  
修士論文コース(言語教育学)  
日本人学校教諭

### 研究者としてのスタート

海外で育つ子どもの誕生をきっかけとして日本語に興味を持ち、言語コミュニケーション文化研究科の後期課程では、バイリンガリズムという視点から国際結婚家庭の言語選択・継承について研究しました。現在は、大学で非常勤講師としてバイリンガリズムに関する科目や留学生の日本語科目を担当しています。在学中は、指導教員の他に2名の先生方からアドバイスを受けるセミナーがあり、さまざまな見地から研究を進めることの重要性を学ぶことができました。また、その過程で、学会発表・論文執筆などの準備をし、研究者としての基礎を身につけることができました。これは現在の私にとって、大きな礎となっています。



花井 理香

2014年3月 後期課程修了  
大阪大学国際教育交流センター非常勤講師  
関西学院大学文学部非常勤講師  
帝塚山大学現代生活学部非常勤講師  
京都外国語大学日本語学科非常勤講師

### Better Communication, Better World

旅行に来た際、日本文化の特徴、すなわち異文化を取り入れ、自国文化と融合させ、新しいものを作り出すことに非常に優れているという点に感心しました。そこで、大学を卒業した後、上海から日本に来ました。英語を専攻していたので、来日してから多言語の深さと面白さをより一層感じました。様々な言語と文化を学習して、比較するために言コミへの入学を決めました。研究を通じて、マスコミが発達している今こそ、多言語における文化のルーツと特徴を学ぶべきだと確信しています。現在は文化共生の一助になるため、研究を続けています。素敵な言コミで皆さん共に頑張る、異なる文化背景を持つ方々とコミュニケーションしましょう。



劉 熙

2016年3月 前期課程修了  
修士論文コース(言語文化学)  
2016年4月 後期課程入学

### 自分でできることを頑張っていくこと

私は韓国で日本語を教えたいと思って留学を決め、大学卒業後、そのまま大学院への進学を決意しました。最初は、留学生であり日本語教育学についての知識があまりないゆえに大変な部分がありましたが、先生の素晴らしいご指導のおかげで、充実した研究生生活を過ごすことができました。研究生生活をしながら、外国人である私が日本で日本語を教えることができるかどうか不安でしたが、自分でできることを頑張ってやっていくうちに、先生方に認めていただき、現在は留学生に日本語を教えることができるようになりました。昔からの「日本語講師になりたい」という夢が叶ったのは、大学院で学んだことや言コミで素晴らしい方々と出会ったおかげだと思います。これからも、大学院で学んだことを活かしつつ自分でできることを頑張っていくかと思っています。



張 承姬

2012年3月 前期課程修了  
2015年3月 後期課程満期退学  
日本語講師

### ■ 前期課程入学者と修了者の進路状況

本研究科入学者には、大学学部を卒業してすぐに入学する人、仕事を続けながら入学する人、仕事をやめて入学する人、休職して入学する人などがあります。結果として、入学者の職種や年齢構成も幅広く多岐にわたるため、多様なバックグラウンドをもった学生の集まりとなっています。その他、関西学院大学以外の大学卒業者も多いのも大きな特徴です。本研究科前期課程修了者の進路は、就職が一番多く、その他本研究科後期課程や他の大学院に進学する人もいます。修了者のうち、就職者(前職への復職・現職の継続含む)は51.2%、そのうち学校関係(中学、高校、短期大学、大学、専門学校などの言語教育担当教員)への就職が62.9%となっています。学校関係(教員)への就職者が多いことが特徴です。

### 修了者の進路状況

修了者	就職者	(内訳)		進学者	その他
		教員	教員以外		
385名	197名 (51.2%)	124名	74名	59名 (15.3%)	128名 (33.2%)

就職者のうち62.9%が教員として就職(前職への復職・現職の継続を含む)

#### ■ 主な就職先一覧

伊藤忠商事、イーオン、デンソー、読売旅行、エイチ・アイ・エス、ベネッセコーポレーション、ECC外語学院、ヤマハ英語教室、日本電子、大広、プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン、メルリックス、楽天、アンスティチュ・フランセ日本、河合塾、エスシー、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ、ニトリ、Asian Bridge、エクセディ、小松製作所、フルタニ産業、マルアイ、(学) 暁学院、(学) 梅村学園、開智中学校・高校、(学) 大阪学芸、(学) 大阪信愛女学院、(学) 関西学院、(学) 甲南学園、(学) 神戸山手学園、(学) 此花学院、(学) 須磨学園、(学) 瀬川学園、(学) 仁川学院、(学) 睦学園、カナディア・アカデミー、東北学院大学、近畿大学、サイアム大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学附属天王寺中学校、中国・大連交通大学、兵庫県高校教員(英語)、西宮市中学校教員(英語)、神戸市中学校教員(英語)、大阪府高校教員(英語)、広島県高校教員(英語)、石川県高校教員(英語)、奈良県高校教員(英語)、その他

## 大学院担当教員 (2018年4月現在)

前 前期課程指導教員  
後 後期課程指導教員

教員の研究内容の詳細については、研究科Web [http://www.kwansei.ac.jp/g\\_language/](http://www.kwansei.ac.jp/g_language/) の「教員一覧」および研究業績データベース <http://www.kwansei.info/src/> を参照

言語文化学

### 阿部 卓也 准教授

ドイツ語現代文学、メディアロジー、西洋古典音楽の拍節論

現在の中心課題は1750~1900年頃のクラシックの拍節論。いわゆる古楽や現代音楽に関する言説は面白いが、クラシックのスタンダードとされてきたこの時代にこそ、理論上の重大な欠落があると考えている。

言語科学

言語教育学

### 石川 圭一 教授

応用言語学、心理言語学、第二言語獲得

ことばの仕組みとその認知メカニズムに関心があります。第二言語の獲得・学習過程の研究を行っており、新しい語彙や文法を学ぶ際、潜在的な学習と明示的な学習ではどのように異なるのか等について調べています。

言語文化学

### 伊藤 正範 教授

イギリス文学、モダニズム小説、ジャーナリズム、労働運動、群衆

19世紀末~20世紀初頭のイギリス小説を主な題材に、テキストと当時のイギリス社会・文化との関わりについて研究しています。特に、マスメディアや労働組合などの発展が、小説というジャンルの成長にどのように影響していたかという点に関心を持っています。

言語科学

### 茨木 正志郎 准教授

理論言語学、史的統語論、文法化

言語は時代とともに変化しますが、特に英語はその歴史の中で相当な変化を受けてきた言語で、様々な興味深い現象が観察されます。このような現象に対して、私は生成文法という言語理論を用いて、英語の歴史的变化の要因とメカニズムの解明を試みています。

言語文化学

### 岩松 正洋 教授

物語理論、小説史、思想史、サブカルチャー研究

小説(とくに非リアリズム小説)を物語論やコミュニケーション論の観点から理論的に研究しています。また哲学や心理学、認知科学の知見に頼りつつ、文学作品の構成・受容を日常の発話行為や聞く行為の延長に置いて分析しています。

日本語教育学

言語科学

### 于 康 教授

日本語学、日本語と中国語の対照研究、日本語の誤用と日本語習得の研究

主に取り組んでいる研究内容: 日本語の語彙研究と文法研究、語彙や文法を中心とする日本語と中国語の対照研究、中国語母語話者日本語学習者の誤用研究及び習得難易度やバックスライティングに関わる日本語の習得研究。

言語文化学

### 上田 和彦 教授

フランス思想、フランス革命、プランシヨ、ラクー=ラバルト

現代思想で問題となる「文学」、「倫理」、「政治」、「宗教」をフランス革命まで遡って考察しています。目下、フランス革命で民主主義が創設される際、なぜ恐怖政治が起こったか考えています。

言語科学

### 内田 充美 教授

英語コーパス言語学、英語の歴史における言語接触と変異

(主として現代の)英語を対象として、人が言語をどのように用いているのかを研究しています。実際に用いられた言語資料を観察する方法で、科学的に適切な記述をすることを目指します。

言語科学

言語教育学

### 梅咲 敦子 教授

英語コーパス言語学、ESP教育、レジスター、ジャンル分析、語彙文法研究

コーパスを利用した実証的研究とその成果を英語教育に活かすことを目指し、英語の類義語・コロケーション・定型表現研究を文脈や言語使用状況(レジスター)・ジャンルと関連づけて行っています。

言語教育学

### 大喜多 喜夫 教授

コミュニケーション能力の育成、中学校・高等学校学習指導要領外国語、4技能の統合

中学校・高等学校学習指導要領に基づき、英語教育はコミュニケーション能力育成のための学習へと転換した。この新しい学習形態で見られる、4技能(聞き、話し、読み、書く)を統合的に育成する学習活動を、調査し研究しています。

言語科学

言語教育学

日本語教育学

### 大高 博美 教授

音響学、言語の音声・音韻体系に関する実証的研究、外国語教授法、文法論、言語習得論、言語文化論

大学院での勉強の目的は、知識をできるだけたくさん詰め込むことにあるのではなく、研究の方法(つまり思考方法、具体的には「問いのたて方」、「検索方法」、「論の運び方」、など)を習得することにあります。

言語文化学

### 大東 和重 教授

日中比較文学、日本近現代文学、中国近現代文学、台湾文学、比較文化論

日本・中国・台湾の文学を、比較文学・文学史研究の手法で研究しています。日露戦後の文学や、郁達夫と大正文学、台南の文学について本をまとめました。外国人の見た日本・中国・台湾についても関心があります。

言語文化学

### 小笠原 亜衣 教授

モダニズム、表象芸術論、アーネスト・ヘミングウェイ

Comment 特に1920年代パリ・モダニズム芸術運動における散文の実験、視覚芸術と散文の相互影響関係について、ヘミングウェイなどモダニズム作家・芸術家を中心に研究しています。

言語文化学

### 河村 克俊 教授

西洋近代哲学、ドイツ啓蒙、自由論、概念史的方法、カント

Comment これまで主に、西洋近代思想史にみられる「自由」について考えてきました。自由は、自律や自発性と同義語とされることがあり、また善悪の問題に関わります。そして自然科学的決定論、運命論、充足根拠律等と矛盾する関係にあります。

言語文化学

日本語教育学

### 関谷 一彦 教授

フランス文化、マルキ・ド・サド、リベルタン文学、リベルタン版画、春画

Comment これまでフランス18世紀文学や文化を研究してきましたが、その中でも今はリベルタン文学を翻訳・紹介することに力を注いでいます。また、フランス文化を研究対象とする院生も受け入れたいと思います。

言語科学

日本語教育学

### 田 禾 教授

対外漢語、現代中国語文法、特定文型の使用条件、日本人学習者の誤用分析

Comment 日本人の中国語学習者を対象とする「対外漢語」の分野で、誤用例を分析しながら、現代中国語の文型及び言葉の使用条件について研究を進めております。中には中国語における類義語と類義表現の分析にも興味を持っております。

言語文化学

### 岡田 弥生 教授

アメリカ文学、英米文化、キリスト教、哲学、アメリカ映画、表象文化論

Comment アメリカ文学、特にアメリカ南部社会にあって魂の救済を求めたWilliam Faulknerと、精神的に荒廃した現代社会において真のロゴスに至る道を希求したT.S. Eliotの作品を哲学、キリスト教思想から読み解いています。

言語科学

言語教育学

日本語教育学

### 神崎 高明 教授

日英語の対照、代名詞、ジェンダー、英語の語法文法、英和辞典

Comment 研究テーマは日英語の対照言語学で、ジェンダーや代名詞を中心に研究を行っています。英語と日本語は構造的には対極の位置にあるので、両者を比較することにより、1つの言語の分析だけでは分からなかったことに気がつくことが対照言語学の醍醐味です。

言語文化学

### 禪野 美帆 教授

文化人類学、ラテンアメリカ地域研究、現代の先住民

Comment 先住民と呼ばれる人々も都市やグローバル化した社会と密接に関わって生きている。一方で、そのような環境を利用しながら、自分たちの文化やアイデンティティの独自性を主張している。こうした視点から、主にメキシコの先住民についてフィールドワークに基づく研究をしている。

言語教育学

言語文化学

### 中川 慎二 教授

異文化間教育、授業分析、談話分析、日本人コミュニティ、言語教育政策、欧州共通言語参照枠、政治教育

Comment 異文化理解、日本人コミュニティ、多文化共生、政治教育、言語教育政策について、歴史的経緯とその実態を文献調査とフィールドワーク(参与観察、インタビュー)から主に質的に解き明かそうとしています。

日本語教育学

言語科学

### Teja Ostheider 教授

コミュニケーションの社会心理学、言語教育政策、共通語としての日本語

Comment 言語政策、一教育、一行動、一意識、一権、アイデンティティ、バリアフリーなど、様々な観点から「マイノリティ」に対するコミュニケーションを研究しています。例えば、外国籍住民や障害をもつ人について調査しています。

言語教育学

### 工藤 多恵 准教授

英語教育、協同学習、教材開発

Comment 学習者の自律性を高める教授法やアプローチに関心を持っています。特に習熟度が低く、英語に苦手意識を持つ学習者を対象とした教材開発、アセスメント方法や教授法の考案に取り組んでいます。

言語科学

### 田中 裕幸 教授

理論言語学、生成文法、原理・パラメータ理論、統語論

Comment 人間の認知能力を取り扱う科学の一分野としての言語学、特に統語論(文の構成法)を中心に研究を行っています。自然科学の方法で、複雑に見える言語に潜む規則性や普遍性に迫ることができるのがこの分野の醍醐味です。

言語科学

言語教育学

日本語教育学

### 中野 陽子 教授

心理言語学、第一言語または第二言語としての日本語と英語の形態素処理と文処理

Comment 眼球運動や事象関連電位を指標とした実験を行いながら、母語または外国語としての日本語や英語の形態素の処理や、文処理における文脈の影響について調べています。

言語文化学

言語教育学

### 柿原 武史 教授

言語政策、言語教育、スペイン語学、少数言語、移民問題

Comment スペイン・ガリシア語をめぐる言語政策、特に教育に関する政策を研究している。政治的論争が子どもの言語教育に与える影響について関心がある。その他のスペイン語圏における言語教育政策、日本における外国語教育政策、外国人の子どもの教育にも興味がある。

言語教育学

言語科学

### 氏木 道人 教授

英語教育、英語リーディングの指導・習得、英語語彙の指導・習得、音読とシャドーイングの効果検証

Comment 主に語彙・リーディング指導とリーディングスキルの習得に関心があります。効果的な英語の授業には、理論とデータ検証に基づいたアプローチが必要です。理論から実践への橋渡しとなる英語教育研究を目指します。

言語文化学

日本語教育学

### 田村 和彦 教授

トーマス・マン、20世紀ドイツ、身体論と植民地主義

Comment 文学研究から出発して、文化・社会へと研究範囲を広げている。ドイツを専門とするが、日本における近代化の問題や、言語やイメージの政治学、植民地主義といったグローバルな問題にも関心を持っている。

言語文化学

日本語教育学

### 西村 正男 教授

中国近現代文学、中国メディア文化史、日中文化交流、1940年代中国文学、東アジアレコード文化史

Comment 中国文学を専門にしていますが、それにとどまらず、ポピュラー音楽研究にも関心を持ち、中国や香港・台湾の音楽状況を調べています。台湾・香港・南洋などの中国語文学にも関心を持っています。

言語教育学

言語科学

### 門田 修平 教授

シャドーイング・音読、メンタルレキシコン、語彙学習、L2リーディング、L2リスニング

Comment 専門は心理言語学、応用言語学。第二言語としての英語が、いかにして知覚・処理され記憶・学習されるかその仕組みについて研究しています。趣味は、食べ、飲んで、唄うこと。それと旅行。カラオケの選曲は多種多様です。

言語文化学

### 島貫 香代子 准教授

アメリカ文学・文化、アメリカン・ドリームのレトリック、場所の感覚と帰属意識、ウィリアム・フォークナー

Comment 20世紀アメリカ南部作家ウィリアム・フォークナーを中心に、アイデンティティと場所の関係性について研究しています。「アメリカン・ドリーム」という言葉がいかにアメリカの理想と現実と反映されているかについても関心を寄せています。

言語文化学

### 塚田 幸光 教授

映画学、表象文化論、クロスメディア、アメリカ文学(ヘミングウェイ、フォークナー、モダニズム/ファシズム)

Comment アメリカを軸とした映像文化の研究をしています。映画、写真、ジャーナル、文学など、網状のテクスト/コンテクストの中で変化する複数の「文化」に対し、クロスメディア的視座からその欲望の性/政治学を考察しています。

言語教育学

### 長谷 尚弥 教授

リーディング指導、パラフレーズ、統語解析の自動化、アメリカのバイリンガル教育、言語教育の持つ社会政治的意味

Comment 英語教育、特にリーディング指導に興味を持っている。また、アメリカにおけるバイリンガル教育の経験から、言語や言語教育の持つ社会政治的な意味合い、アメリカバイリンガル教育の日本の英語教育への応用にも関心を持っている。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

### Vivian Bussinguer-Khavari 准教授

second language acquisition, heritage language education,

Comment My research is mainly divided into two areas: Second Language Acquisition (SLA) and Heritage Language Education (HLE). Within SLA, I focus on the teaching of English as a second or foreign language (ESL/EFL) and within the field of HLE, I study the first language maintenance and second language acquisition of immigrants children.

言語教育学

### 住 政二郎 准教授

CALL、項目応答理論、ダイナミック・アセスメント

Comment 外国語教育におけるテクノロジー利用をテーマに、現在は、項目応答理論を応用したダイナミック・アセスメントの手法の開発と実践への応用に取り組んでいます。

言語科学

言語教育学

言語文化学

### 寺沢 拓敬 准教授

言語社会学、言語政策、英語教育史、言語使用・言語イデオロギーの政治経済的分析、批判的応用言語学

Comment 言語現象(言語使用、言語に対する態度、言語教育)について社会科学的な理論・手法を用いて検討している。主たるフィールドは日本、得意な分析手法は史資料の内容分析および社会統計である。「日本社会と英語」に関する研究が多いが、それ以外の言語現象にも関心がある。

日本語教育学

### 長谷川 哲子 准教授

アカデミック・ライティング教育、留学生の作文に関するピリース、日本語ライティング教材の開発

Comment 日本語教育が扱う分野の中で、特にライティングの分野に関心を持っています。文章の分かりやすさや書くことに対するピリースなどが最近関心を持っているテーマです。

言語教育学 言語文化学

### 福地 直子 准教授

前

カウンセリング心理学・英語教育方法論・異文化間教育

Comment: 異文化適応、異文化間能力、多文化共生におけるカウンセリングマインド養成教育に関心を持っています。多文化共生社会に向け、新しい社会教育実践モデルの検討、異文化理解教育の発展などに取り組んでいます。

言語文化学

### 藤田 友尚 教授

前 後

シャルル・ノディエ、フランス革命からロマン主義時代に至る政治文化とジャーナリズム、「間テクスト性」、政治的装置としてのオペラ

Comment: 研究の主眼は、革命とそれに続く動乱期の政治文化の変容をノディエがいかに創作技法に反映させながら作品を構築しているかという点にある。同時に、19世紀フランスにおける権力装置としてのオペラの表現にも注目している。

言語文化学

### 藤野 真子 教授

前 後

中国演劇、劇評論、中国民間芸能、中国近現代文学、上海文化、中国メディア・出版史、吳方言文芸

Comment: 20世紀上海における、京劇を中心とした伝統演劇の動向分析をテーマとしている。特に、観客のニーズを踏まえた演技・演出の改革、メディアの発達と劇評との関係を中心に研究を行っている。また関連ジャンルとして、同時期の文学、言語等にも目配りしている。

言語文化学

### 増永 俊一 教授

前 後

19世紀アメリカ文学 (Antebellum)、アメリカ文化史、ツーリズム、ビュリティニズム、N. ホーソーン

Comment: 主として19世紀前半のアメリカ文学・文化が考察対象である。社会的、経済的、政治的コンテキストと、作家固有の言語表現や文学技法といった美学との交差に関心があり、現在は特に19世紀ツーリズムの発展と芸術表現との関連について考察を進めている。

言語科学 言語教育学

### 村上 陽子 准教授

スペイン語学、スペイン語教育、文法教育・授業分析

Comment: 現在、主に研究しているテーマは、語学教育における文法の役割と学習方法による学びの変化です。また、スペイン語話者の言語行動に興味があり、口語コーパスの分析やアンケート調査を通じて、挨拶、依頼などの言語行動について研究しています。

言語文化学

### 森田 由利子 教授

前

イギリス小説、文化、ライフ・ライティング、伝記、肖像画、ヴァージニア・ウルフ

Comment: イギリス小説／文化研究が専門領域ですが、留学時より、「ライフ・ライティング(Life-writing)」というジャンルに興味を持って研究を進めてきました。伝記や自伝、さらには、肖像画や写真、家なども「ライフ・ライティング」であると捉え、考察しています。

日本語教育学

### 森本 郁代 教授

前 後

会話分析、相互行為分析、コミュニケーション・デザイン

Comment: 人々が会話をしたり一緒に共同作業をしたりといった、社会生活のさまざまな場面における日常的な活動をどうやって行っているのかを、録音や録画データを基に言語と非言語(体の動きや視線など)の両面から研究しています。

言語科学 言語教育学

### 山田 一美 准教授

応用言語学、第二言語習得、普遍文法、L2としての英語・日本語習得、空代名詞、冠詞

Comment: 第二言語習得(SLA)では、母語の影響、段階的な発達、体系的、多様性、不完全性が観察されています。これらの現象にはどのような説明が可能なのでしょうか? SLAのメカニズムや習得モデル、また、言語教育への示唆について考察を進めています。

言語科学 言語教育学

### 山本 雅代 教授

前 後

バイリンガリズム、同時バイリンガル、第1言語としてのバイリンガル、言語習得・発達、言語使用

Comment: 2つの言語を同時に習得し始める同時バイリンガルの子どもは、それらの言語をどう習得、発達させ、使用しているのか、またそうした子どもを取り巻く家庭や社会の言語環境はどのようなものかを調査・研究しています。

言語文化学

### 李建志 教授

韓国朝鮮研究、ナショナリズム、在日朝鮮人問題、比較文学、マイノリティ問題、朝鮮王族の研究

Comment: 朝鮮文学・文化を研究が研究の出発点です。現在は韓国華僑の問題、アイヌ問題、小笠原西洋系島民、石垣島台湾系島民、パラオの日本語世代、旧外地からの引揚者などを、日本社会と離れたエスニックグループと捉えて研究しています。

言語文化学

### Hans Peter Liederbach 教授

解釈学、異文化論、西洋哲学(近現代)、日本思想史(近現代)、比較思想(西洋/日本)

Comment: 現在の私の主な研究テーマは、日本社会思想である。それは二つの意味合いを持っている。第一に、日本の思想家・哲学者が社会をどのように考えているか、第二に、日本社会がどのような思想的な根拠、換言すればどのような「社会的想像」(social imaginary)に基づいているか、といった二つの意味合いである。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

### Andrew Nowlan 言語常勤准教授

internationalization, intercultural competence, student mobility, second language acquisition

Comment: Greetings! In the current knowledge economy, global interconnectedness provides many exciting opportunities to build cross-cultural competences, even in an ethnically homogenous country, like Japan. I try to apply an international dimension to all aspects of the learning process by drawing not only on my personal, professional, and academic experiences, but also those of the students. I look forward to our discussions and collaborations.

# 01

## Semester制と授業開講時間帯

原則として半年開講のSemester制を採用し、昼夜開講のカリキュラムを編成しています。また一般学生、社会人学生との区別なく授業を開講し、言語科学プログラムと言語教育プログラムでは夜間授業のみの履修でも修了に必要な単位を修得することができます。

# 02

## 教職課程(専修免許)の設置(申請中)

前期課程では、専修免許(中学英語、高校英語)を取得することができる教職課程を設置しています。言語科学・言語教育学プログラムでは、一種免許(中学英語、高校英語)をすでに取得している場合、本研究科の修了必要単位を修得することで、免許申請に必要な単位をほぼ修得することが可能です。

# 03

## 単位数による学費納入制度

社会人入試で入学した学生で、修了まで2年を越える履修計画の場合、履修単位数を基礎とした学費納入方法を選択することが可能です。入学時において決定した学費納入方法については、修了まで変更することはできません。

# 04

## 大阪梅田キャンパス (K.G.ハブスクエア大阪)

夜間授業(VI時限・VII時限)は原則として大阪梅田キャンパスで実施します。梅田キャンパスでは、専門職大学院経営戦略研究科の授業を実施している他、学部学生の就職支援活動、各種セミナー、産学連携、研究会活動、同窓会などの活動が行われています。

## 授業・研究に対する 充実したサポート体制



# 06

## 言語コミュニケーション・フォーラム

各学生が研究成果を発表し、各方面の研究者(学会構成員である教員や院生)からコメントや助言を受けることができる場として、毎学期(年2回)開催されます。フォーラムでの発表は、論文や研究成果の方向性を段階的に確認し、他者の視点を加えて論文の質を高めることを目的としています。また、各分野の著名人、専門家の講演等も随時開催され、最新の研究についての情報を吸収することもできます。

# 10

## 言語コミュニケーション文化学会

「言語コミュニケーション文化学会」は、本研究科の教員と現役学生および修了者からなる学会組織として、2001年4月1日付にて関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科開設と同時に設置された学会です。この学会の主な活動には、毎年9月と2月に開催される「言語コミュニケーション・フォーラム」と研究雑誌『言語コミュニケーション文化』の発行があり、その他にも言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学に関わる著名な研究者を招いて講演会を実施し、最新の研究についての情報を学会員に提供しています。また、研究雑誌『言語コミュニケーション文化』は、前期課程・後期課程修了者、後期課程満期退学者および在学中の学会員等の研究成果発表の場であり、原則として年1回発行します。

# 05

## 大学図書館

<西宮上ヶ原キャンパス>

蔵書数約150万冊で、西日本有数の規模を誇り、国内外のあらゆるデータベースが活用できます。また、申込制による研究個室も利用できます。

# 07

## データベース・コーパス

以下の4種類のデータベースが利用可能です。  
・Linguistics and Language Behavior Abstracts (LLBA)  
・MLA International Bibliography  
・British National Corpus (BNC)  
・WordbanksOnline  
他にも本大学図書館が契約する各種データベースが利用できます。

# 08

## 交換留学

交換留学は、本学に在籍しながら、協定大学へ1学期間または2学期間(1年)留学できる制度です。本研究科協定先のサンフランシスコ州立大学をはじめ、関西学院大学の協定校への留学が可能です。

# 09

## 学生共同研究室

<西宮上ヶ原キャンパス>

大学院棟(1号館)内に、院生専用スペース(延べ86席、パソコン45台設置)があり、夏季および冬季休暇期間以外は23:00まで利用可能です。また、G号館1階に、本研究科院生専用の共同研究室があり、自習や院生の情報交換の場として活用されています。